

高野 訓子さん（島根県浜田市出身）
JICA 草の根技術協力事業
案件名：ブータン王国における美術教育支援事業
実施団体：公益財団法人浜田市教育文化振興事業団
実施国：ブータン王国
2018年2月11日（日）中国新聞 SELECT 掲載



※中国新聞社の許諾を得ています

表現活動 面白さ伝える

私が勤めている浜田市世界こども美術館は、国際協力機構(JICA)の草の根技術協力事業として、ブータンの美術教育支援を行っている。「幸せの国」として知られるブータンは、国民総幸福量(GNH)という独自の考え方を打ち出し、経済成長を重視するのではなく、伝統的な社会や文化を大切に、国民が幸福感を持って暮らせる社会を目指している。



折り紙を使った作品を示す子どもたち

ブータンで美術の教科が公教育に導入されたのは、2013年。現在256の小学校で美術の授業がされている。しかし専門的な教育を受けた教員がいない、画材不足などから現場の教員の授業実践が進んでいないなどさまざまな課題があり、手すき和紙で長年交流を続けてきた浜田市へ美術教育の支援要請があり昨年8月末に事業が始まった。

われわれは、昨年9月にブータンを訪問し、デモンストレーション授業を実施。紙を折るだけでさまざまな形を作り出すことができる折り紙や廃材利用の観点から牛乳パックを使ったこま作りをした。発想次第でさまざまな表現を生み出すことができる活動は大いに盛り上がり、目を輝かせながら活動に取り組む子どもたちの姿に出会うことができた。

ブータンでは、予算の関係や物流網の未発達により画材が手に入りにくいことも課題だ。廃材や自然素材など身近なものを活用することの大切さ、創意工夫を凝らし、表現することの面白さを伝えながら、これから3年間ブータンの美術教育に力を注いでいきたい。